



# **SnapMirror SVM**

## **DR デスティネーションからデータを提供する**

### **ONTAP 9**

NetApp  
February 12, 2026

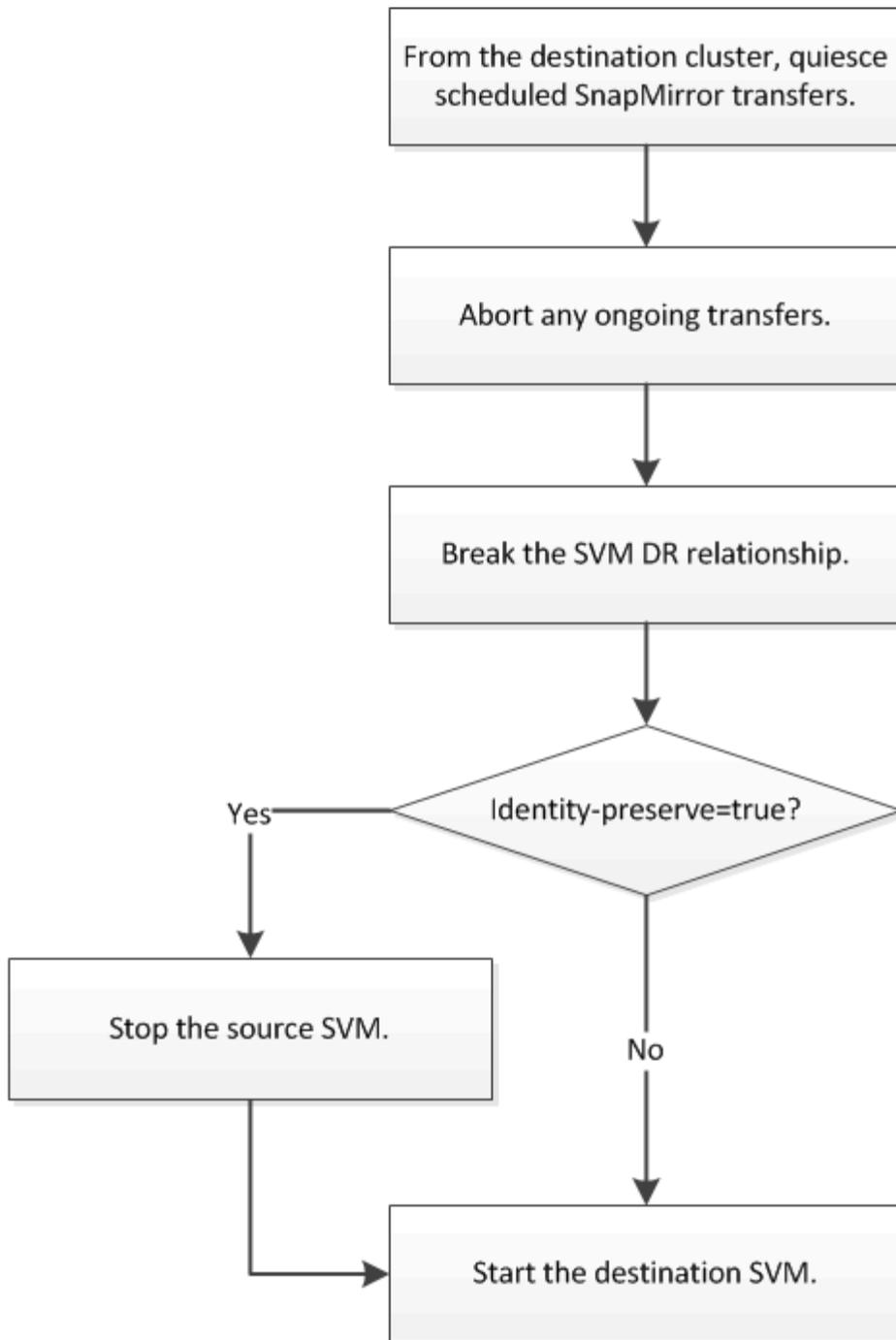
# 目次

SnapMirror SVM DRデスティネーションからデータを提供する .....	1
ONTAP SnapMirror SVM災害復旧ワークフロー .....	1
ONTAP SnapMirror SVMのデスティネーション ボリュームを書き込み可能に設定する .....	2

# SnapMirror SVM DR デスティネーションからデータを提供する

## ONTAP SnapMirror SVM 災害復旧ワークフロー

災害からリカバリしてデスティネーションSVMからデータを提供するには、デスティネーションSVMをアクティブ化する必要があります。デスティネーションSVMのアクティブ化では、スケジュールされたSnapMirror転送の停止、実行中のSnapMirror転送の中止、レプリケーション関係の解除、ソースSVMの停止、デスティネーションSVMの起動が実行されます。



## ONTAP SnapMirror SVMのデスティネーション ボリュームを書き込み可能に設定する

クライアントにデータを提供する前に、SVMデスティネーション ボリュームを書き込み可能にする必要があります。

手順はボリュームレプリケーションの手順とほぼ同じですが、1つだけ例外があります。SVMレプリケーション関係の作成時に `identity-preserve true` を設定した場合は、デスティネーションSVMをアクティブ化する前にソースSVMを停止する必要があります。

タスク概要

この手順で説明されているコマンドの詳細については、"[ONTAPコマンド リファレンス](#)"を参照してください。



ディザスタ リカバリのシナリオでは、ソースSVMとそのデータにアクセスできなくなること、および最後の再同期以降の更新が無効または破損している可能性があることから、ソースSVMからディザスタ リカバリ デスティネーションSVMにSnapMirror更新を実行することはできません。

ONTAP 9.8以降では、System Managerを使用して、災害発生後にデスティネーションStorage VMをアクティブ化できます。デスティネーションStorage VMをアクティブ化すると、SVMデスティネーション ボリュームが書き込み可能になり、クライアントにデータを提供できるようになります。

#### 手順

このタスクは、System ManagerまたはONTAP CLIから実行できます。

## System Manager

1. ソース クラスタにアクセスできる場合は、SVMが停止していることを確認します。\*Storage > Storage VMs\*に移動し、SVMの\*State\*列を確認します。
2. ソース SVM の状態が「実行中」の場合は、停止します。⋮を選択して、\*停止\*を選択します。
3. デスティネーション クラスタで、必要な保護関係を見つけます：\*[保護] > [関係]\*に移動します。
4. 目的のソース ストレージ VM 名にマウスを移動し、⋮をクリックして、\*宛先ストレージ VM のアクティブ化\*を選択します。
5. デスティネーション ストレージ **VM** をアクティブ化 ウィンドウで、デスティネーション ストレージ **VM** をアクティブ化して関係を解除 を選択します。
6. \*Activate\*をクリックします。

## CLI

1. デスティネーション SVM またはデスティネーション クラスタから、SVM を休止して、デスティネーションへのスケジュールされた転送を停止します：

```
snapmirror quiesce -source-path <SVM>: -destination-path <SVM>:
```



`-source-path`および`-destination-path`オプションでは、SVM名の後にコロン（:）を入力する必要があります。以下の例をご覧ください。

次の例では、ソース SVM `svm1`とデスティネーション SVM `svm\_backup`間のスケジュールされた転送を停止します：

```
cluster_dst::> snapmirror quiesce -source-path svm1: -destination  
-path svm_backup:
```

`snapmirror quiesce`の詳細については、[link:https://docs.netapp.com/us-en/ontap-cli/snapmirror-quiesce.html](https://docs.netapp.com/us-en/ontap-cli/snapmirror-quiesce.html) ["ONTAPコマンド リファレンス"]を参照してください。

2. デスティネーションSVMまたはデスティネーション クラスタから、デスティネーションへの実行中の転送を停止します。

```
snapmirror abort -source-path <SVM>: -destination-path <SVM>:
```



`-source-path`および`-destination-path`オプションでは、SVM名の後にコロン（:）を入力する必要があります。以下の例をご覧ください。

次の例では、ソース SVM `svm1`とデスティネーション SVM `svm\_backup`間の進行中の転送を停止します：

```
cluster_dst::> snapmirror abort -source-path svm1: -destination-path
svm_backup:
```

`snapmirror abort`の詳細については、link:<https://docs.netapp.com/us-en/ontap-cli/snapmirror-abort.html> ["ONTAPコマンド リファレンス"]をご覧ください。

3. デスティネーションSVMまたはデスティネーション クラスタから、レプリケーション関係を解除します。

```
snapmirror break -source-path <SVM>: -destination-path <SVM>:
```



`-source-path`および`-destination-path`オプションでは、SVM名の後にコロン（:）を入力する必要があります。以下の例をご覧ください。

次の例では、ソース SVM `svm1`とデスティネーション SVM `svm\_backup`間の関係を解除します：

```
cluster_dst::> snapmirror break -source-path svm1: -destination-path
svm_backup:
```

`snapmirror break`の詳細については、link:<https://docs.netapp.com/us-en/ontap-cli/snapmirror-break.html> ["ONTAPコマンド リファレンス"]を参照してください。

4. SVM レプリケーション関係の作成時に`-identity-preserve true`を設定した場合は、ソース SVM を停止します。

```
vserver stop -vserver <SVM>
```

次の例では、ソース SVM を停止します svm1：

```
cluster_src::> vserver stop svm1
```

5. デスティネーションSVMを起動します。

```
vserver start -vserver <SVM>
```

次の例では、デスティネーション SVM を起動します svm\_backup：

```
cluster_dst::> vserver start svm_backup
```

#### 終了後の操作

"[データ アクセスのためのデスティネーション ボリュームの設定](#)"の説明に従って、データ アクセス用に SVM デスティネーション ボリュームを設定します。

## 著作権に関する情報

Copyright © 2026 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S.このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を随時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5252.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および/または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用权を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用权については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

## 商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、<http://www.netapp.com/TM>に記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。